



黒島魂

～しまごころ～

「みがきあい(キラキラ)」

「ささえあい(ニコニコ)」

「わかりあい(ワクワク)」

授業改善に取り組んでいます！！

度々お伝えしていますが、子供たちが生きる未来は「予測困難」とされています。その未来を切り開く力、それは「**確かな学力**」です。そして、その「**確かな学力**」の定着を支えるのは「**心身のたくましさ**」であり、本校では「心身のたくましさ」を、右の図のような力と捉えています。

さて、学力を図る指標の一つとして、市（4年、7年…国語、算数）、県（5年、8年…国語、算数9年…英語）、国（6年、9年…国語、算数、理科）の各学力調査が、今年度も4月に実施されました。

その結果を確認したところ、本校は、すべての調査において、どの教科も、おおむね県や市の平均を上回っていました。（教科によっては、国の平均を大きく上回っているものもあります。）このことから判断すれば、黒島っ子の学力は定着傾向にあると捉えることができます。（あくまでも、一つの指標からのみの捉えですが…）

本校では、更なる学力向上をめざし「**確かな学力を身につけた児童・生徒の育成 ～学びの系統性につけたい力を明確に意識した授業改善を通して～**」をテーマに、日々の授業改善を行っています。

本校がめざす授業スタイルとはどのようなものなのか、簡単に説明します。教職員には「**子供自ら考え、調べ、気づき、説明し、確かめる授業**」と伝えています。授業の主役はあくまでも子供です。教師が主役になり、持っている知識を披露する授業では、上の図のような力は身につけません。教師はコーディネーター（調整役）もしくはファシリテーター（進行役）に徹します。そのためには「3つのない」が必要です。それは「**教えない、説明しない、否定しない**」です。教師は、この「3つのない」を心がけ、授業の主役である子供に寄り添い「**質問、賞賛、確認、助言、相談**」等で子供の学びを支えていきます。そこには、我々が子供の頃に指導を受けた「教師」の姿はありません。すべての単元、すべての授業ではありませんが、可能な範囲で、まったく新しい「教師」の姿、授業スタイルを追究しているところです。ただし、研究は未だ道半ばです。理想とする授業スタイルにどこまで近づくことができるのか、誰にもわかりません。しかし、2学期始業式の日子供たちにも話をしましたが、「**間違ふこと**」をためらわず、試行錯誤を繰り返しながら、「**子供自ら考え、調べ、気づき、説明し、確かめる授業**」の実現に向け、今後も挑戦し続けていきます。

保護者の皆様の、ご理解とご協力をよろしくお願いします。

未来を切り開く力

確かな学力

心身のたくましさ

- 1 自ら学びに向かう力…自主性・向上心等
- 2 学び続ける力…思考力・判断力・忍耐力等
- 3 他者とかかわる力…思いやり・寛容・柔軟性等
- 4 新たな価値を見出す力…創造力・応用力等

確かな学力等の定着に必要とされる資質・能力

- 1 理解を伴った知識をもとに、他の場面でも応用できる知識や技能
- 2 知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等
- 3 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組、その粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整する力